

2021年（令和3年）3月19日（金曜日）

海星学院高校生徒会（室蘭市高砂町）は、市民から集めた書き損じはがきを室蘭エヌエフ協会に寄贈する活動が、2020年度（令和2年度）で10年の節目を迎えた。累計5万3千枚の書き損じはがきは270万円の寄付金に換金。貧困や紛争で学校に通えない世界の子どもたちの教育支援に役立てられ、21年度以降も取り組む。

日本エヌエフ協会連盟は1989年（平成元年）から世界寺子屋運動を行っており、発展途上国の子どもたちも平等に教育を受けられる支援を実践。この活動に賛同した同生徒会は、2011年

海星学院生徒会 活動10年 「1枚でも宝物」

書き集めたはがきに加え、未使用切手や寄付金など目標を手渡した。立野会長は皆さんの協力で、世界寺子屋運動の活動が支えられている」とお礼を述べた。

森川輝生徒会長（2年生）は「多くの市民の皆さんに協力してもらい感謝している。活動後輩に託し、これからわたくさん集めて世界の子どもたちが笑顔になれば」と方を込めた。

エヌエフ統計研究所によると「教育を受けられない子どもは、世界で1億2100万人と推計されている。」

（伊藤真史）

「書き損じはがき」累計 5万3千枚270万円



生徒会を代表し目標を手渡す森川生徒会長（左から2人目）

（平成29年）から書き損じはがきを集め、毎年寄贈している。

20年度は募集を呼び掛けるポスターを、道南への協力を得て路線バス車内に掲示。モルエ中島など室蘭市と登別市の計3カ所に回収ボックスを置くなどして受け付け、例年並みの4002枚集まった。換金すると、387人の子どもが学校で1カ月学べる学費に相当する。

同生徒会は18日、校内に同協会の立野子会長と小鷹信夫事務局長を招